

新興国レポート

インド2017年度予算案発表

株式市場はインフラ整備や農村支援を拡充する内容を好感

- ▶ インド政府は2月1日、2017年度（2017年4月～2018年3月）の予算案を発表し、現在開かれている予算国会（1月31日～4月12日予定）に提出。提出は昨年より約1ヵ月前倒し。
- ▶ インド株式市場は、インフラ整備や農村支援の拡充、中間層の所得減税提案等を好感。

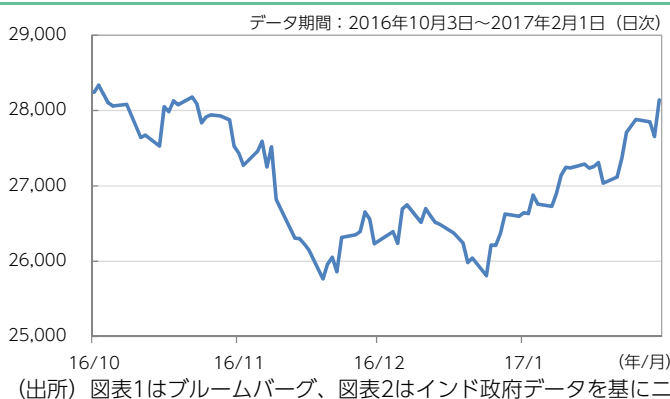
～ インド2017年度予算案の概要 ～

- ◆ 歳出総額は約21.5兆ルピー（約37兆円、1インドルピー：1.7円換算）と16年度見通しに比べ約6.6%増。16年度の約12.5%増より伸びを抑制。
- ◆ 昨年11月に突如実施した高額2紙幣廃止の悪影響等を考慮し、地方・農村向け歳出を同約24%増の約1.87兆ルピー（約3兆円）に増額。また、3,500kmの鉄道敷設や電力供給体制強化等、インフラ整備・拡充にも資金を重点配分。
- ◆ 国内総生産（GDP）に対する財政赤字比率（上限目標）は、17年度が16年度見通しと同じ3.2%、18年度は3.0%と見込む。17年度については16年度予算案での3.0%の見通しから微修正。
- ◆ 年収25万～50万インドルピー（約43～85万円）の中間所得者層の所得税率を、10%から5%に引き下げ提案。

～ 株式市場の反応と今後の注目材料 ～

- ◆ 財政赤字（対GDP）上限目標がほぼ据え置かれ、規律ある財政運営が行われると判断されたこと、人口13億人の約7割が住むとされる農村・地方向け支援が強化されたこと等を好感し、2月1日の株式市場（SENSEX指数）は前週末比約2%上昇し、昨年10月25日以来となる28,000台を回復しました。
- ◆ 財政規律が保たれた予算案であったこと、消費者物価の落ち着き等から、インド準備銀行（RBI）の利下げ余地が広がる可能性があります。2月7～8日の会合で仮に利下げが決定されれば、株式市場の支援材料になるものと思われます。今回の予算案発表は昨年より約1ヵ月前倒しで行われています。2月初旬から3月初旬にかけて5州の州議会議員選挙が実施されます。農村支援強化を打ち出した予算案が選挙結果にどのような影響を与えるのかも注目されます。

【図表1】インド株式（SENSEX指数）推移



【図表2】インド財政赤字（対GDP比）推移

